

## 企画セッション

### ①知財経営の実践に向けたコミュニケーションガイドブック

### ②社会課題解決に向けた知財の役割-I-OPEN プロジェクトを踏まえて-

#### 【概要】

##### 講演①:

企業価値の源泉となる成長性と収益性の裏付けの多くが有形資産から無形資産にシフトしているなか、2021 年 6 月に改訂されたコーポレートガバナンス・コードにおいて、上場企業は、知的財産への投資についての情報の開示と取締役会による実効的な監督を行うべきことが定められた。変革により中長期的な成長をもたらす、企業価値向上を実現するには、経営戦略の一翼として、知的財産への投資とその活用を積極的に行うことが経営層には求められている。

経営戦略としての知的財産への投資・活用に関しては、経営層と知財部門、その他関係部門との連携のためのコミュニケーションの形成が要点であることが、過去の特許庁での調査研究などから明らかになっている。

昨年度特許庁では、経営戦略としての知的財産への投資・活用に向けた連携に課題を感じている経営層・知財部門・関係部門に対して、支援を行う専門家チームを派遣し、実際の支援を行いながら、経営者と知財部門を取り巻く「意識」や「情報」のギャップの実態と、それを埋める打ち手のポイントとを調査する調査研究を行った。そして、調査結果を仮想事例としてとりまとめた「知財経営の実践に向けたコミュニケーションガイドブック～経営層と知財部門が連携し企業価値向上を実現する実践事例集～」を公表した。

本講演では、このガイドブックの内容について紹介する。

##### 講演②:

I-OPEN プロジェクトは、貧困、ジェンダー（性差）、環境問題などの社会課題を解決したいという想いと創造力から生まれる知的財産をいかして、未来を切り開く情熱を有する者（I-OPENER）の支援を行っている。こうした支援を通じ、社会課題の解決に向けた取り組みを伝え、支え、広げていくためのツールとして、産業財産権という付加価値の創出・活用を促し、新しい知的財産の在り方を示すことを目的としている。

2021 年度は 10 者の I-OPENER に知的財産の専門家とビジネスの専門家からなる専門家チーム（I-OPEN サポーター）と連携して伴走支援を行った。各 I-OPENER は、自身の「想い」を具現化するために、知的財産を効果的に活用し、その成果を I-OPEN フォーラムで発表した。

また、2022 年度は 11 者の I-OPENER に伴走支援を実施したほか、講義動画の作成や、I-OPENER や I-OPEN サポーターを中心としてコミュニティ形成のため、オンサイトイベントを関東と関西で開催したり、オンラインで交流できるようにしたりした。

2023 年度も引き続き伴走支援の実施と、I-OPENER 同士がコミュニティを形成するためのプラットフォームづくりを行い、2025 年の大阪・関西万博で新しい知的財産の在り方を発信することを目標としている。

## 企画セッション

### ①知財経営の実践に向けたコミュニケーションガイドブック

### ②社会課題解決に向けた知財の役割-I-OPENプロジェクトを踏まえて-

#### 【講演者】

##### 講演①:

浦口 幸宏 (うらぐち ゆきひろ)

特許庁総務部企画調査課 特許戦略企画調整官

<略歴>

平成15年4月 特許庁入庁

令和4年7月 審査第四部デジタル通信技術担当主任

令和5年7月 現職

##### 講演②:

笹岡 友陽 (ささおか ともはる)

特許庁審査第二部自動制御 審査官

特許庁デザイン経営プロジェクトチーム

<略歴>

平成13年4月 トヨタ自動車株式会社入社

平成26年6月 トヨタ自動車株式会社退職

平成26年7月 特許庁入庁

長谷川 未貴 (はせがわ みき)

特許庁審査第四部伝送システム 審査官

特許庁デザイン経営プロジェクトチーム

<略歴>

平成31年4月 特許庁入庁

以上